

特定非営利活動法人地球と未来の環境基金

平成29年度事業報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

◆事業の成果

本年度実施した事業は下記の通りである。

(1) 国内森林保全事業

- ・ 岩手 西和賀町での植樹地メンテナンス事業
- ・ 千葉 君津市、木更津市での植樹地メンテナンス事業
- ・ 埼玉 飯能市での森林整備事業
- ・ 奈良 吉野町での間伐／PAL植樹事業
- ・ 奈良 吉野町でのふるさとの森再生事業
- ・ 広島 竹原市での植樹メンテナンス事業
- ・ 広島 呉市での植樹事業
- ・ 間伐材利用促進事業(結糸プロジェクト)
- ・ 生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人CEPAジャパン事務局)

(2) 海外環境保護事業

- ・ ブラジルでの河岸林保全事業

(3) バガス(非木材紙)普及事業

- ・ バガス普及啓発事業(大学学園祭へのモールド導入)

(4) 環境助成金プログラム支援事業

- ・ 環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)
- ・ 分散型電源導入事業(経済産業省 資源エネルギー庁)
- ・ 廃炉・汚染水対策事業(経済産業省 資源エネルギー庁)

◆2017年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

1) 国内森林保全事業

【岩手・西和賀町での植樹地メンテナンス事業】

岩手県和賀郡西和賀町にあるザ・パックフォレスト活動の第 1 号地では、今年も地元の「西和賀森づくり隊」のメンバー(写真)を中心に、植樹地の下刈りを行なった。今年はお盆の 8 月 15 日(火)午前 10 時から、雑草が伸び放題になっている植樹地や、ザ・パックフォレストの看板周辺を中心に、下刈りを実施した。

西和賀森づくり隊のメンバーは下の写真前列中央の新田さん(隊長)は既に 80 歳に近く、他のメンバーも 70 代に入っているが、皆さん平素から野良仕事をしているだけに体力もあり元気だ。引き続き年 1 回ではあるが、お世話になった地元の方々と交流しながら、植樹地の整備、維持に努めたい。



西和賀森づくり隊メンバーと高橋会長(写真後列左)



雑草が生い茂った植樹地



ザ・パックフォレストの看板回りも雑草を刈り取った



植栽から 17 年ほどが経過し、木陰ができる林に。

【千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」、

君津市「豊果(ゆたか)の森」&「四季彩(しきさい)の森」の育林活動】

◆千葉県木更津市真里谷「皆登里(みどり)の森」

7月15日、EFFのスタッフ2名+ボランティア3名の手で、刈り払い機5台、ノコギリ、剪定バサミを使用して下刈と苗木のメンテナンス作業を実施した。看板を探しても見つからないほどの丈の高い草が密集していた。手前方面は草丈も短いため、刈払機を使用して進んだ。中央部から奥と斜面上部は丈3-4mの灌木のため刈払機での作業は無理だったため、苗木の周辺部分を剪定鋏とノコギリで刈り、陽が当たるようにした。条件の良い木は5-6m、逆に陽の当たらないことはヒョロヒョロで、その差は仰天に値する。昼食後も同じ作業を継続し、手前部は苗木を残して刈り終える。その他は1本ずつメンテナンスしたが、遠目には藪にしか見えない。

一人がアシナガバチに眉間を刺された。すぐにポイズンリムーバーで毒を吸い取り軟膏を塗る。処置が早かったので翌日は腫れも痛みもなかったとの報告を受けた。一人(美濃部)がマダニに喰いつかれ、川崎の病院に行った。蜂対策、マダニ対策ともに今後の重要な検討課題としていきたい。



(作業開始直後)



(作業終了後)

◆君津市豊果(ゆたか)の森

地主の岩田さんによると、梅が豊作だったという。プラムも収穫してくれていて、おいしくいただいた。プラムの実には4-5カ所、岩田さんが袋を被せてあったが、まだ青かったので採らなかった。昨年の秋に刈ったせいか、ススキの伸びが低く刈りやすく、苗木のあるところの草(ススキ)は全て刈り払った。斜面部は、2年前に伐ったアブラギリの萌芽更新(ヒコバエ)なので丈は50cm程度の低木だったため、剪定鋏で伐った。

生育状況、山側部と斜面部は生長し柿の実が多数ついている。姫リンゴもしかり。道側手前部の桃は全滅で、奥道側の柿の木は生育が悪い。土壌が肥沃じゃないことと、ススキとアブラギリに負けたためと思われる。6月には梅狩り、10-11月には柿狩りが可能と思われる。今後も草(ススキ)刈りを継続していき、実の管理(何がいつ実るのかを明らかに)をしていきたい。

◆君津市四季彩(しきさい)の森

看板から続く道の草を刈り、アブラギリはチェーンソーで伐り倒した。四季彩の森の苗木は、サプリガードより太い幹になりつつあり、サプリが食い込まないようにまき直し作業が必要かと思われる。次年度以降の作業案として検討していきたい。



豊果(ゆたか)の森



四季彩(しきさい)の森

【埼玉・飯能市での森林整備事業】

『里地・平地林再生事業の実施に関する協定書』に基づき実施している埼玉県飯能市での保全活動も6年目を迎えた。今年もサイタ工業株式会社からの協賛に加え、埼玉県助成金でご支援いただき【草刈】・【間伐】、そして当初は植樹をする予定であったが現地視察の結果【2013・2014 年植樹地整備】に切り替え活動を行った。

1. 草刈(8月)

8月19日(土)苗木の生育補助のため長柄鎌等を使い、有志7名で昨年3月に植樹した場所を中心に草刈を行った。途中、スタッフが蜂に刺される事態が発生したが、救急用具で適切に対処し事なきをえて、滝のような汗をかきながら約2時間作業して活動を終えた。前年度など一部作業しきれなかったところは、外部委託して整備を行った。



2. 間伐(11月)

11月4日(土)晴天の下、総勢22名で間伐体験を実施した。今回も参加者うち約半数のみなさんが初めての間伐体験となったが、フォレスト萩原スタッフはじめ丁寧な講師の指導により14本伐採した。

昼食ではおにぎりに加え野菜たっぷりの汁物、地元で採れたヒラタケのソテーを準備いただき皆で堪能した。その後は、伐りたての間伐材でスウェーデントーチづくりチャレンジ。



1個目は、火力が弱くうまくできなかったが、2個目は講師の方が穴をあける工夫をしてくださり無事ポップコーンができた。参加者からは非日常の体験が楽しかったとの声をいただき、楽しみを作りながら取り組むことの大切さを改めて感じた。

3. 2013年・2014年植樹地整備(蔓、サブリガードの除去、苗木の手入れ)

3月3日(土)、春のように日差しに恵まれ参加者6名が集まった。今回は急斜面な場所での整備を軸に行うため一般募集はせず専門家、スタッフ、関係者のみで活動を行った。2013・14年の植樹地は、バラのようなトゲのある植物が多数あり、苗木までたどり着くのも一苦勞であったが、剪定鋏で蔓や灌木の枝を取り除き、道を切り開き1本ずつ蔓や倒れてしまって苗木の生育を阻害するサブリガードを除去した。蔓にまかれて曲がってしまったものも多かったが、順調にまっすぐ育った苗木は2mを越える背丈に生長しており、時間の経過と生命の力強さを感じる姿になっていた。午前・午後と約5時間かけて無事に整備と苗木の手入れを完了した。蔓などの影響もあり、今後どの程度生き残っていけるかは苗木の生命力にゆだねるところもあるが、引き続き整備に努めて生育を見守っていききたい。



【奈良・吉野町での間伐／PAL 植樹地整備事業】

◆世界(文化)遺産吉野の山の森林保全事業 (PAL 植樹地整備事業)

2010 年より、株式会社パル、町内の山林所有者北岡本店、吉野中央森林組合、ザ・パック株式会社と 5 者協定「世界(文化)遺産吉野の山の森林保全と育成を目的とした「PAL／フォレスト植林」」を結び、生物多様性の森への保護と育成を目指して、緑の保全活動と植林事業を展開している。

2017 年も例年同様に植樹地の下草刈り、植栽した苗木と鹿の食害防除ネット(サブリガード)の補修作業を実施した。道上方の植樹地への入り口部分が、普段山林に足を踏み入れないボランティアには急峻だったようで、ロープを張ってアクセスを補助した。ボランティアには、山林での作業に適した服装(長袖、靴)を徹底するよう、あらためて呼び掛けたい。

<実施日> 2017 年 11 月 11 日(土)

<参加者> 33 名 (内訳) (株)パル、ザ・パック(株)、吉野中央森林組合、NPO 法人地球と未来の環境基金



◆元気森・MORI in 吉野山 (間伐体験事業)

2017 年 11 月 18 日、奈良県吉野山で、毎年恒例の一般市民と協賛企業のボランティアを集めた間伐活動「元気もりもり・MORI in 吉野山」を実施予定としていたが、あいにくの雨天のため中止とした。

町内外から 87 名もの参加者が駆けつける見込みで、また間伐活動終了後には希望者 19 名を対象に、木材加工の現場とモデルハウスを見学するプログラムも予定していたので大変残念である。

【奈良・吉野町での「ふるさとの森づくり事業」】

長年活動を続けている奈良県吉野町で、今年は新たに「ふるさとの森作り事業」として、幼稚園等の子どもが校庭などでどんぐりの苗木を育てて、これを吉野山の民有林(台風等で崩落し、その後手入れをしていない場所)に植樹する活動に協力することになった。活動資金は国土緑化推進機構の緑の募金助成を活用し、企画、準備には吉野町中央森林組合や地元の教育委員会、奈良県の緑化推進協会が関わり、当団体は緑の募金への助成申請等業務を担った。

吉野町の幼稚園児が参加する植樹活動は、2017 年 11 月 12 日(日)午前中に実施した。当日は園児の親御さんら総勢 20 名余りが参加し、子どもたちは自分たちで育てた苗木(120 本)を親御さんと一緒に植樹した。本活動は、緑の募金の助成を得て行われているが、当日は同募金へ寄附を行なっている企業(ゴルフ場や保養所など経営しているリソルホールディング(株))の CSR 担当者も参加し、子どもたちと一緒に植樹活動を行った。次年度以降は、引き続き吉野町教育委員会や幼稚園などの協力を得て、子どもの環境教育の一環として、山で拾ったどんぐりを苗木ポットで育苗し、幼稚園等では紙芝居等を活用した学びの時間を設け、一定程度育った苗木を山にもどす活動として継続して行く予定で、当団体では吉野町中央森林組合とも協力し、本活動を支援して行く。



緑の募金の青木常務(写真左)も参加された



植樹に参加した親子とリソル社の役員(写真左)

【広島・竹原市での植樹地メンテナンス事業】

今年も竹原市では、苗木の生長を促す草刈によるメンテナンス活動を行った。場所については昨年までは国有林(2009年～2013年植樹)で活動を実施していたが、尾三地方森林組合、広島森林管理署森林官立ち会いのもと、8月25日に現地を視察した結果、植樹した木はいずれも草のよりも大きく生長し草刈をしなくても十分に生育できる状態となっていたため、今年度より竹原市の市有林で活動を行うこととした。

8月26日(土)地元竹原高校の生徒、(株)エディオン、ザ・パック(株)等の企業社員、竹原市役所職員の合計34名が参加し、実施することができた。

早朝は今にも雨が降り出しそうな空模様であったが、朝8時バンブー公園に集合し、車および徒歩で現場に到着する頃には、少し晴れ間も見えるほどの天気回復していた。到着後は全5班にわかれ、尾三中央森林組合にご指導いただきながら約2時間かけて長柄鎌による草刈作業を行った。

今回はじめてボランティアによる市有林での草刈活動を行ったが、国有林に比べて比較的土壌条件も良いようで、小さいながらも苗木がしっかりと根付いている様子を確認できた。また参加したボランティアの皆さんも急な斜面と蒸し暑さに耐えながら、熱心に作業してくださり無事活動を終えることができた。今後も市有林で国有林同様に丁寧にメンテナンスを継続していきたい。



現場へ続く林道を順に進む



額に汗しながらの草刈作業



いい汗をかいたみなさんで集合写真！



生長してきた松

【広島・呉市での水源林保全事業】

広島県呉市で新たな活動への参画がスタートしている。呉市にある野呂山(標高 839m)の森林は、土砂災害防止・水源涵養としての機能と同時に、シラウオ漁やカキ養殖が盛んで、世界的にも有名なアマモの藻場が成育する三津口湾の海域に、良質の水を届ける重要な役割を担っている。しかし、近年、松枯れや手入れの行き届かない森林の荒廃により、その景観や土砂災害防止等の機能が損なわれるとともに、地域住民が身近に森林と親しみ、自然環境について学ぶ里山としての役割も失われつつある。そこで、森林所有者や漁業関係者等が協力し、荒廃した森林を整備し、市民参加型の森づくりへの意識啓発を図ろうとの機運が地元で高まりつつある。

活動には2人のキーマンの存在がある。一人は、広島県竹原市の山火事跡地での植樹活動で長年協力いただいた旧・芸南森林組合(現在は森林組合統合により尾三地方森林組合へ併合された)の組合長であった中原謙治氏である。もう一人はやはり竹原市での植樹活動で知り合った安浦町漁業協同組合の若手部会(わかぶ会)の会長・金田祐児氏だ。野呂山山麓に位置する中畑地区の共有山保存会(いわゆるゆる入会山)で会長を務める中原氏は、水源林の役割を果たす共有山が、人が利用しなくなり荒れている現状をなんとかしたいと考えていた。他方、野呂山を水源とする野呂川の下流に位置する三津口湾で先祖代々伝統的な牡蠣養殖を営む金田氏は、近年牡蠣の生育が悪く、親の世代では1年で種付けから収穫が得られたのが、今は3年かかり、その要因の一つに山の荒廃があることを東北地方の同じ牡蠣養殖者・畠山重篤氏(NPO 法人森は海の恋人の創業者)の講演で気づき、自身も地域の森林整備活動に参画したいと考えていた。

そこで当団体が両者の仲立ちをし、何度か話し合いを経て、2016 年度から共有山保存会が実施主体で2年間の呉市の特認事業(補助金事業)として除間伐など整備を開始した。これを引き継ぐ形で、今年度からは当団体が国土緑化推進機構の緑の募金へ助成金申請を担い、共有山保存会と安浦漁協と連携し、整備活動を継続している。今期実施した活動は以下の通りである。

1. 植樹(2018 年 1 月 21 日)

広島県呉市安浦町中畑地区(野呂川ダム周辺の山林)の山林(総面積は約 3.0ha で今年度対象地は約 0.25ha)において広葉樹を中心に約 500 本を植樹した。当日は地元の共有山保存会、安浦漁協わかぶ会、地元住民有志ら総勢 84 名が集い、まだ寒さ残る中で苗木を植えた。また、本活動は国土緑化推進機構の緑の募金の助成をいただいているが、その緑の募金のスポンサーであるローソン(株)の本部 CSR ご担当の仙田氏や呉市のローソンの

オーナー社長なども参加され、一緒に植樹活動に汗を流された。

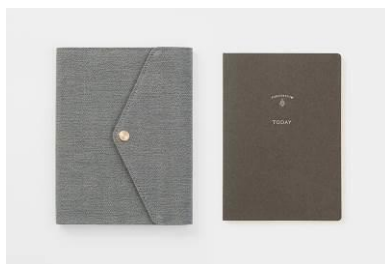
2. 親子参加の環境学習会(2018 年 3 月 10 日)

山と海のつながりを現場で学ぶための環境学習会を開催した。植樹した山を水源とする野呂川の下流に広がる三津口湾で、牡蠣養殖を営む金田さんの牡蠣船に乗船し、牡蠣筏(日本唯一現存する杭打ち式牡蠣筏)の間近まで行き、金田さんから牡蠣の成育には山のミネラル分が大切なことなどお話を伺った。



【間伐材利用促進事業（結糸プロジェクト）】

“吉野の木から生まれた布で吉野の森を守る”をキャッチフレーズに奈良県吉野の間伐材を原料に布をつくる「結糸」(YOUITO)プロジェクト。今年度も企業・行政への提案を行い、株式会社デザインフィルとのコラボレーションが実現した。今回、初めて草木染した生地を採用いただき、美しいグレーの色味を活かしオリジナルブランド【TOUCH & FLOW(タッチアンドフロー)】でダイアリーセット、バッグの一部に使用された。加えてオフィシャル WEB サイトでも「紙と布」と題したコラムを掲載いただき、紙という視点から紙と布の関係、その紙の原料となる日本の森林背景などもお伝えいただいた。商品は TOUCH & FLOW 湘南 T-SITE 店、東急プラザ銀座店、オフィシャルオンラインショップで販売されている。



また、百貨店の催事にも継続出店し、今年は 2 つに参加した。1つ目の大丸東京店では企画から提案し「未来へつなぐ・つながるプロダクトフェア」と題して昨年伊勢丹新宿店でコラボしたアロマブランド「NIKKA」を始め、地域の資源を大切にしたモノづくりする 6 ブランドの方々と共に商品を販売、ワークショップなどの体験も含めて展開した。2つ目は結糸のデザイン・ディレクションいただいている STUDIO BYCOLOR 秋山氏が出展するイベントにお声掛けいただき、岡山天満屋にて商品を展示・販売させていただいた。

<出店催事>

- ・ 2017 年 6 月 21 日(水)～27 日(火) 「未来へつなぐ・つながるプロダクトフェア」大丸東京店
参加ブランド：Ki&、NIKKA、mamamano、portierra、ろくろ舎、結糸-YOUIITO-
- ・ 2017 年 10 月 11 日(木)～16 日(水) 「Design meets 0.」岡山天満屋 / 葦川会館



【生物多様性事業支援プロジェクト(一般社団法人 CEPA ジャパン事務局)】

2010 年 10 月に開催の生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において採択された「愛知目標」の短期目標を達成するため、主導的な役割を果たした「生物多様性条約市民ネットワーク」の活動が母体になり「一般社団法人 CEPA ジャパン」が設立された。当法人は CEPA ジャパンからの依頼を受け 2013 年より事務局業務の一部を受託し、今年も地球環境基金助成事業に係わる事務をはじめ、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)主催の生物多様性アクション大賞事務局業務も担った。

●生物多様性アクション大賞 2017 概要●

「国連生物多様性の 10 年日本委員会」(UNDB-J)では、国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう「5つのアクション」(たべよう、ふれよう、つたえよう、まもろう、えらぼう)を広く呼びかけている。「生物多様性アクション大賞」は、全国各地で行われている5つのアクションに取り組む団体・個人を表彰し積極的な広報を行うことにより、生物多様性の主流化に貢献するもので 2013 年度に創設。2014 年度より UNDB-J と一般財団法人セブン-イレブン記念財団との共催で実施。今年度より環境大臣賞、農林水産大臣賞、特別賞として SDGs 賞が新設された。

■募集期間: 2017 年 7 月 15 日(土)～2017 年 9 月 18 日(月・祝)

■大賞賞決定・授賞式: 2017 年 12 月 8 日(金) ■URL: <http://5actions.jp/award/>

■実施体制

主 催: 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J) 共 催: 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協 賛: 前田建設工業株式会社 セキスイハイム 特別協力: 公益社団法人国土緑化推進機構 経団連自然保護協議会

協 力: 国連広報センター、富士フィルム株式会社、株式会社オルタナ

後 援: 生物多様性自治体ネットワーク、朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社、環境省、農林水産省

事務局: 一般社団法人 CEPA ジャパン

審査委員: 渡邊綱男(IUCN 日本委員会委員長)※審査委員長※、足立直樹(レスポンスアビリティ)、

小野弘人(セブン-イレブン記念財団)、梶谷辰哉(国土緑化推進機構)、川廷昌弘(CEPA ジャパン)、坂田昌子(UNDB 市民ネット)、道家哲平(日本自然保護協会)、星野智子(環境パートナーシップ会議)、中川一郎(農林水産省大臣官房政策課環境政策室長)、長田啓(環境省自然環境計画課生物多様性主流化室長)

■応募総数: 116

■環境大臣賞 : 「エコミーティング～建設業における環境活動～」株式会社加藤建設(愛知県)(まもろう部門優秀賞)

■農林水産大臣賞: 「魚部～人物多様性をもとに、生物多様性を伝える活動」北九州・魚部(福岡県)(つたえよう部門優秀賞)

■5部門優秀賞: たべよう部門・石巻市立大原小学校(宮城県)、ふれよう部門・とくしま生物多様性リーダーチーム(徳島県)

えらぼう部門・特定非営利活動法人つくしん棒(岐阜県)

■特別賞(4 賞): 復興支援賞・気仙沼市立大谷中学校(宮城県)、グリーウェイブ賞・特定非営利活動法人三嶺の自然を守る会(徳島県)

セブンイレブン記念財団賞・兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班(兵庫県)

SDGs 賞・渋川小学校・滋賀の郷土料理学習実行委員会(滋賀県)

■審査委員賞 : 魚津三太郎倶楽部(富山県)、特定非営利活動法人大杉谷自然学校(三重県)みさを大豆研究班(熊本県)

一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク(宮城県)、特定非営利活動法人田んぼ(宮城県)

山梨県立吉田高等学校放送部×富士山アウトドアミュージアム(山梨県)

この 他 38 団体が入賞



(2) 海外環境保護事業

【ブラジルでの河岸林保全事業】

2014 年から各種助成金を活動資金とし、現地カウンターパート NGO「アマゾン森林友の協会(ASFLORA)」の協力を得て、アマゾン地域での河岸浸水林保全事業を継続して来た。2017 年度は助成金ではなく、企業からの寄付により現地活動を支援した。三井住友銀行は役職員給与天引による積み立て「三井住友銀行ボランティア基金」を設置している。同基金の寄附先として、当団体のアマゾン地域での河岸林保全活動が選定され 100 万円のご寄附をいただいた。本年度はこの資金や他の企業寄付を活用し、アグロフォレストリーを導入したアバエテウーバ近郊のコミュニティで植栽後の管理等への継続的な伴走支援や、森林環境教育や啓発活動を行った。

<環境教育実績>

- ① 2017 年 8 月 8 日：ベネビーデス市(ASFLORA 本部)
(参加者) サンタイザベル市、ベネビーデス市の三校の生徒合計 72 名と教職員 12 名
- ② 2017 年 12 月 22 日：サンタバルバラ市(エスペジット・リベイロ入植地)
(参加者) 地元住民 219 名、アマゾニア農大の先生、在ベレン領事事務所長
サンタバルバラ市保健衛生部長、ハイネッケン社従業員

8 月 23、24 日にはアバエテウーバ市で河岸林保全のためのアグロフォレストリーを導入したコミュニティの住民 2 名が、アグロフォレストリー先進地のトメアスで開催されるセミナーに参加した。セミナーには、約 170 名の参加者があり、初日は、トメアス・アグロフォレストリーでの肥料と灌水、ピタヤ(ドラゴンフルーツ)栽培、カカオの新たな病害が近隣諸国に蔓延している情報と対策、家族農業者の簿記と生産コスト把握の実施例など有益な情報を学べたようだ。

今年はブラジルでのアグロフォレストリー普及事業に関連して、2018 年 2 月 24 日から 3 月 5 日にかけて、以前、当団体でも助成をいただいた国土緑化推進機構(緑の募金)の青木正篤常務と、現況モニタリングを行なう専門家、長崎大学大学院教授の池上清子教授を、現地にご案内する機会をいただいた。訪問趣旨は緑の募金で助成したブラジル・アマゾン地域の事業地の現況モニタリングで、ベレン近郊のサンタバルバラ市(エスペジットリベイロ入植地)とトメアス郡(マサランドウーバ、4a ヘジオンなどの生産者組合)を訪問し、住民らからアグロフォレストリー導入の経緯や苦勞、自己評価などを伺った。



ASFLORA の森の環境劇



トメアスの生産者組合を訪問し、苗畑を見学。
写真左が池上清子先生。

(3) バガス(非木材紙)普及事業

【大学の学園祭へのバガスモールド(エコ容器)導入】

2009 年より、エコ学園祭を推進する商材としてバガスモールドの導入を働きかける活動を展開している。砂糖きびの搾りかす(バガス)を原料にしたバガスモールドは、未利用資源を活用、木材資源の消費低減から森林保全に寄与するとともに、焼却処理しても有害物質を発生させず、土中で容易に自然分解できるという優れた特徴を持つことから、大学生の学内環境活動の一つとして注目されてきた。

本活動は、全国の学園祭におけるバガスモールドの普及拡大を狙いとしており、紙関連業界(卸商や小売店など)に対するバガス(非木材紙)への認知度向上および経済的インセンティブの喚起を目指している。

2012 年からは、バガスモールド導入に係る事柄だけではなく、他の環境企画やバガスモールドの土壌分解のコツ、大学祭自体の来客数増加施策、実行委員会の人材戦略やミッション・ビジョン作りについても相談に乗るなどのサポートも実施して導入校を増やしてきた。また、埋め立て場所を持たない都市部の大学から多く寄せられる廃棄モールドの土壌分解の要望に応えるため、小規模農家や農業生産法人とコンソーシアムを組み、土壌分解のサービスの展開を模索している。本年度は、キャンパス内にある破砕機と農場を活用して、従来から独自の取り組みを続けてきている東京農業大学厚木キャンパスの収穫祭より新規の注文を受け付けている。

引き続き、EFF、大学、小規模農家や農業生産法人という三者のパートナーシップで[学園祭でのモールド使用・分別収集]→[運搬・破砕]→[埋め立て]→[学生と農家との交流促進/土壌の利活用]というサイクルを回し、導入校を増やしていきたい。



<2017 年度 学園祭でのバガスモールド導入実績(個数)>

大学名 (日時)	どんぶり				パック		丸皿			平角皿		コップ	モールド 合計	木製 スプーン #162 162 mm
	MD-3	MD-5	MD-6	MD-7	MP-1	MP-2	MM-3	MM-4	MM-9	MT-1	MT-3	L051		
	φ154× 54	φ160× 68	φ135× 47	φ112× 45	184× 129×44	171× 118×37	φ220× 20	φ180× 17	φ152× 47	200× 111×13	200× 140×17	φ80× 91		
信州大学 松本キャンパス (10月28~29日)								300					300	
東京農業大学 世田谷キャンパス (11月3~5日)	15,000					23,400			5,500		3,100	19,000	66,000	1,800
東京農業大学 厚木キャンパス (11月4~5日)	5,300	1,900	3,200	5,100	4,000	700	1,100	2,700	500	2,200	750	600	28,050	500
愛媛大学 城北キャンパス (11月11~12日)								50			450	300	800	
合計	20,300	1,900	3,200	5,100	4,000	24,100	1,100	3,050	6,000	2,200	4,300	19,900	95,150	2,300

.(4) 環境助成金プログラム支援事業

【環境NGOの組織基盤強化助成事業(Panasonic NPOサポート ファンド)】

パナソニック(株)との協働で実施している、NPO/NGO の組織基盤強化を支援する助成プログラム『Panasonic NPOサポート ファンド』は、今年度も前年同様の内容で取り組んだ。助成テーマは「客観的な視点を取り入れた組織基盤の強化」とし、第三者のアドバイザーを導入することで実効性の高い組織課題解決の取り組みを推進し、環境分野の市民活動の持続的発展、社会課題の解決促進、社会の変革へ貢献することを目指している。

従来と同様に、新規の助成団体を公募した。応募時期に合わせては、全国 6 地域(京都、熊本、高知、山形、横浜、長野)で、パナソニック(株)と日本 NPO センター、各地の中間支援組織との共催で「NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ & 公募説明会」が開催された。ワークショップには NPO の組織基盤強化に高い関心を寄せる参加者が多く集まったが、助成への応募数は 27 件(2015 年および 2016 年募集の助成団体からの継続申請案件 10 件を含む)にとどまった。

助成団体の選考プロセスは、7 月 29 日に公募を締め切り、応募のあった全 27 件中 2 件は応募要件を満たさず、3 件は助成趣旨に合致しない内容と判断し、残る 22 件について 4 人の選考委員に案件評価を依頼した。その上で 9 月上旬に選考委員会を開催、助成先候補として新規応募団体から 5 団体、継続応募団体から 7 団体を選定した。9 月上旬～10 月初旬に事務局が助成先候補の 12 団体のうちの 5 団体(新規)を訪問し、選考委員会で出された指摘・確認事項に基づいてヒアリング(実査)を実施した(継続 7 団体はヒアリングを省略、メールコミュニケーションでの確認とした)。10 月中旬にヒアリング結果を選考委員会へフィードバック、選考委員の最終意見を取りまとめ、パナソニック(株)との協議および選考委員長の決裁を得て最終的に新規応募 3 件、継続応募 5 件に計 1,464 万円の助成を確定させた。

2017 年に本助成を受けて組織基盤強化に取り組んだ 8 団体[助成事業期間: 2017 年 1 月～12 月]からは四半期報告書で助成事業の進捗について報告を受け、6～7 月に各団体への中間ヒアリングを実施、助成事業の進捗状況を確認、事業実施上の問題点や下半期へ向けた計画の変更などを協議した。2018 年 3 月 15 日には、助成先 8 団体を集めて成果報告会(於 パナソニックセンター)を開催、事業成果の発表と共有を行い、選考委員や参加者から意見やアドバイスをいただいた。

＜Panasonic NPOサポート ファンド 2017 年募集事業 助成先＞

助成団体	所在地	代表者（役職）	助成額 (万円)
【組織診断事業】			
(特活)足尾に緑を育てる会 「荒廃した足尾の山に百万本の木を植え自然を回復させ渡良瀬川の清流を取り戻す活動の組織診断」	栃木県	鈴木 聡（会長）	100
【組織基盤強化事業】			
(特活)持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会 「環境共生「自伐型林業」の全国展開期における中期事業推進計画策定を通じた組織基盤強化事業」	東京都	中嶋 健造（代表理事）	200
(特活)山村塾 「農家が主体となった都市農山村連携事業を継続するための組織基盤強化」	福岡県	宮園 福夫（理事長）	200
【組織基盤強化事業】（継続 2 年目）			
(特活)大雪山自然学校 「大雪山国立公園・旭岳エリアにおける「利用者による環境保全」の実現に向けた組織基盤強化」	北海道	荒井 一洋（代表理事）	200
(認定)JUON NETWORK(樹恩ネットワーク) 「より多くの人々が活躍するための組織基盤強化と中期計画の策定」	東京都	生源寺 真一（会長）	200
(認定)自然環境復元協会 「第 2 創業期への移行時における危機的状況を機会とした、もっと社会に貢献できる NPO への成長」	東京都	石川 晶生（理事長）	200
(特活)兵庫県有機農業研究会 HOAS 「次世代へつなげる組織基盤強化に向けた理事会のガバナンス改革と組織運営強化事業」	兵庫県	牛尾 武博（理事長）	164
【組織基盤強化事業】（継続 3 年目）			
(特活)棚田 LOVER's 「棚田保全に向けた主力事業の構築、質的向上による組織基盤強化事業」	兵庫県	永菅 裕一（理事長）	200
助成総額（8団体）			1,464

【分散型電源導入促進事業費補助金】

当法人では、平成25年5月より、省エネルギーや電力需給の安定化を目的とした「分散型電源導入促進事業費補助金」の基金設置法人として、天然ガスコージェネレーション、自家発電設備(コージェネレーションシステムにおける発電設備を含む)の導入や燃料費に対して補助金を交付する事業を実施している。

本事業は、ガスコージェネレーション推進事業と自家発電設備導入促進事業に区分され、両者とも補助金の交付事業は終了している。平成28年度はガスコージェネレーション推進事業については、同補助金交付の事務局を担った(一社)都市ガス振興センターを通じて、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しなどの業務を行なった。また、自家発電設備導入促進事業においては、補助金による取得財産の処分事案が1件発生し、これに対応した。

平成27年5月に交付決定の取消を行ない、補助金(5億円)の返還を求めているテクノ・ラボ(株)の事案については、当時の同社の実質経営者であった岡登和得氏への刑事裁判は最高裁での判決を待つ状況であるが、民事訴訟については、訴訟費用が基金財源から支弁できないという事情から提訴を見送って来た。今年2月になって、資源エネルギー庁の新しい担当者から、財務省と裁判費用(約900万円)を基金財源から支弁できるよう財務省と協議するので、民事訴訟の準備をするようにとの指示があった。これを受けて、当法人では顧問弁護士の石井邦尚氏、事務局を委託していたみずほ情報総研(株)の協力得て、民事裁判の提訴準備を進めている。

【財産処分の状況】

- ガスコージェネレーション推進事業 (事務局:(一社)都市ガス振興センター)
 - 財産処分の報告があった件数: 0件
 - 財産処分に伴う補助金の返納額: 0円
- 自家発電設備導入促進事業 (事務局:みずほ情報総研(株))
 - 財産処分の報告があった件数: 1件
 - 財産処分に伴う補助金の返納額: 0円(事業承継と認定)

【廃炉・汚染水対策事業費補助金】

当法人では、平成26年2月より、我が国の科学技術の水準の向上及び廃炉・汚染水対策を円滑に進めることを目的とした「廃炉・汚染水対策事業費補助金」の基金設置法人として、廃炉・汚染水対策に資する技術の開発を支援する事業に対して補助金を交付する事業を実施している。

本補助金の交付規程では、補助事業の完了した日の属する補助事業者の会計年度の終了後5年間、補助事業者の毎会計年度終了後90日以内に補助事業に係る収益状況について収益状況報告書により基金設置法人に報告しなければならないとされている。平成27年度末までに全ての補助事業は終了しており、当法人ではこの規程に基づいて平成28年度より収益状況報告書の收受、確認の業務を行なっている。

平成29年度は平成30年3月末までに44件の収益状況報告書を收受、確認し、収益が生じたと認められた事業者はなかった。また、補助事業者が補助金を活用して取得した財産を処分する際の財産処分に伴う補助金の返還、基金への繰戻しの事案が1件発生した。これについては、本補助金事業で事務局を委託していた三菱総研(株)を通じて対応した。

【財産処分の状況】

- 財産処分の報告があった件数: 1件
- 財産処分に伴う補助金の返納額: 1, 822, 831円

2017 年度 ご寄付ご協賛企業・団体一覧

■ 商品の売上げや、サービスによる収益の一部からのご寄附・ご支援



ザ・パック 株式会社

EFF が植林活動を開始した 2000 年から商品売上げの一部で国内森林保全活動を継続してご支援いただくと共に、整備活動にも参加いただいています。



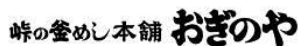
株式会社パックタケヤマ

商品売上げの一部で国内森林保全活動をご支援いただいています。



株式会社 WASARA

国内・海外の環境保全活動をバガス紙器の売上げの一部でご支援頂いています。



株式会社荻野屋

国内環境保全活動を環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

服部製紙株式会社

国内・海外の環境保全活動に環境に配慮したパッケージを使用した商品の売上の一部でご支援頂いています。

■ 各プロジェクトへのご寄付・ご協賛

株式会社 エディオン

株式会社 エディオン

国内森林保全活動(奈良・広島)に、ご協賛・ご参加頂いています。

サイタ工業株式会社

国内森林保全活動(埼玉)に、ご協賛・ご参加頂いています。



前田建設工業株式会社

国内森林保全活動(全国)に、ご協賛・ご参加頂いています。

※ 社員と家族の環境活動を推進する社内エコポイント制度 Me-pon で貯めたポイントの交換先として、有志の方々から寄付をいただいています。

■ ポイントプログラムを通じたご寄附・ご支援



Gooddo (グッドゥ)

社会貢献を身近にするプラットフォーム。WEB サイトでのクリック数をポイント化したご寄附をいただき、国内の森林保全活動に活用させていただきます。